

## 平成 28 年度 学校経営計画及び学校評価

## 1 めざす学校像

自己と他者を大切にできる豊かな感性を持った生徒を育成し、地域とともに育つ学校

- 1 豊かな人間関係が形成できる力を持つ人権感覚に富んだ生徒を育成する
- 2 学ぶ楽しさを実感することで基礎学力を有した「社会を生き抜く力」をそだてる
- 3 「働くことの意欲」を醸成し、自己の進路を主体的に選択できる力を育てる

## 2 中期的目標

- 1 安全で安心な学校生活を送れる学校づくり（豊かな人間関係が形成できる力を持つ人権感覚に富んだ生徒を育成する）
  - (1) 学校が生徒相互にとって安全で安心して生活できる場と感ずることのできるように、人間関係の育成に努める
    - ア ホームルームの時間や総合的な学習の時間などを活用し、基本的なコミュニケーションの取り方を入学後の早い時期に体験的に学習する
    - イ 事故防止及び緊急事態発生時の対応が円滑にできるようにする
  - (2) 規範意識の醸成と個々の生徒への支援体制の強化
    - ア 「規範意識の醸成」に努めるため、授業に規律の確立と遵守を徹底し、学びの習慣の大切さに気づかせていく
    - イ 「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律」の施行を踏まえ、合理的配慮に関する理解を深めるとともに必要な生徒への支援に努める
    - ウ 教育相談の取組をさらに充実できるよう校内体制の在り方を検討する
  - (3) 基本的な生活習慣の確立
    - ア 基本的な生活習慣の確立のため保護者と連携に努める
    - イ 生徒自ら自己の健康管理の大切さに気づくよう理解・啓発に努める
- 2 基礎学力の育成（学ぶ楽しさを実感することで基礎学力を有した「社会を生き抜く力」を育てる）
  - (1) 「魅力ある授業」の創造と実践
    - ア 生徒状況を的確に把握し「わかる授業」を大切にし、生徒が「できた。わかった。」が感じられる授業の研究を行う
    - イ 1年次にはホームルームクラスを少人数クラスとして展開を行い、引き続き授業の充実をはかる
  - (2) 公開授業の活用
    - ア 公開授業週間を活用し、教員相互の授業に関する話をする機会を増やす
  - (3) 基礎基本を重視した教材を活用した授業づくり
    - ア 先駆的に取り組んでいる学校の見学を行い、教材研究に生かす。
    - イ エンパワーメントスクールなどの教材の活用などを検討し、利用可能な先駆的な教材の活用を進める
- 3 自己肯定感の育成とキャリア教育の充実（「働くことの意義」を醸成し、自己の進路を主体的にできる力を育てる）
  - (1) 生徒会活動や部活動、地域貢献の活性化
    - ア 体育祭や文化祭などを教員主導型から生徒会などと協力し生徒の自主的活動になるよう引き続き改善を図る
    - イ お掃除ボランティアなどボランティア活動などの充実
    - ウ 部活動への参加を促進するため活動状況のホームページ掲載を促進する
  - (2) 3年間を見通したキャリア教育の推進
    - ア 職業観・勤労観を養い将来の自分の生き方について展望を持つための働きかけを推進する
    - イ 教科学習や「産業社会と人間」「総合的な学習の時間」、ホームルーム活動などあらゆる教育活動が生徒自身の自己発見の機会とする
  - (3) 社会人としてのコミュニケーション力の大切を気づかせる
    - ア 社会人として卒業後期待される力として、コミュニケーション力であることに気づかせる
    - イ 進路希望調査を実施し、進路希望に応じた豊富で適切な情報を提供するとともに、適正検査等を利用し、自己の適性や能力を発見させるよう努める

(進路未決定率 平成 27 年度 13% → 平成 30 年度 8%)

## 【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

| 学校教育自己診断の結果と分析 [平成 28 年 12 月実施分]   | 学校協議会からの意見  |
|--|---|
| <p>学校が落ち着きだし体育祭や文化祭も盛んになってきていることなどから生徒評価全体として上がっている。一方、保護者は学校に卒業だけでなく、様々な期待を持つようになってきたため評価が下がった。教員は学校の課題をしっかりとつかみ取り組むべきことが理解できているので評価は下がったが、「教育活動全般にわたる評価を行い、次年に生かしている」の項目は評価が上がっており、しっかりと取り組んでいることがわかる。</p> <p>これによって、生徒と保護者・教職員の肯定感の差が少なくなった。生徒をみると、年次進行で肯定度や充実度があがっていく。回収率は生徒・保護者・教職員とも改善された。</p> | <p>第1回【平成 28 年 7 月 23 日 (土)】</p> <p>企業も昔と違い人を育てる余裕がなく、高卒でも即戦力を期待している。しっかりと資格取得などのサポートをしてほしい。</p> <p>生徒たちも落ち着いてきているので、委員会活動などに取り組んでほしい。</p> <p>第2回【平成 28 年 11 月 11 日 (金)】</p> <p>昨年度に比べ、体育館での内容も充実した。中庭の模擬店も昨年度に比べ、種類も増えている。何より生徒の顔が生き生きしており楽しんでいることがよくわかる。(複数委員)</p> <p>第3回【平成 29 年 2 月 4 日 (土)】</p> <p>学校経営や学校教育自己診断アンケートについて、保護者の参加が少ないのではないか。</p> <p>エンパワーメントスクールへの改編が行われるが、改編内容がわかりづらい。</p> |

3 本年度の取組内容及び自己評価

| 中期的目標                    | 今年度の重点目標  | 具体的な取組計画・内容   | 評価指標  | 自己評価  |
|--------------------------|---|---|---|---|
| 1<br>安全で安心な学校生活を送れる学校づくり | <p>(1) 安全で安心して生活できる場<br/>人間関係の育成に努める</p> <p>ア 基本的なコミュニケーション<br/>イ 事故防止及び緊急事態発生時</p> <p>(2) 規範意識の醸成と個々の生徒への支援体制の強化</p> <p>ア 授業に規律の確立と遵守を徹底<br/>イ 合理的配慮に関する理解<br/>ウ 教育相談の取組をさらに充実</p> <p>(3) 基本的な生活習慣の確立</p> <p>ア 基本的な生活習慣の確立<br/>イ 自己の健康管理</p> | <p>(1) 学校が生徒相互にとって安全で安心して生活できる場と感ずることのできるように、人間関係の育成に努める</p> <p>ア・入学後、「総合的な学習の時間」、ホームルームの時間、「産業社会と人間」など時間を活用し、基本的なコミュニケーションの取り方を体験的に学習する。</p> <p>イ・校内の全ての施設・設備・教具の点検</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・緊急事態発生時の連絡体制の確認と徹底</li> <li>・生徒の参加による安全衛生講習会の実施</li> </ul> <p>(2) 規範意識の醸成と個々の生徒への支援体制の強化</p> <p>ア・1年次団を中心に「授業定着」「規範意識の醸成」をめざして教職員と生徒の信頼関係を構築する</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生活指導に課題を抱える生徒に対しては、保護者懇談、家庭訪問などにより保護者と連携を深め、改善されるまで粘り強く指導する。</li> </ul> <p>イ・合理的配慮に関する校内研修を実施するとともに、発達障がいをはじめとする障がいのあるすべての生徒についての理解を深める。</p> <p>ウ・教育相談委員会とスクールカウンセラーの連携をさらに深める</p> <p>(3) 基本的な生活習慣の確立</p> <p>ア・「おはようございます」「ありがとうございました」などの基本的なあいさつができるよう啓発する</p> <p>イ・健康診断で要受信者の受診率を向上させる</p> | <p>(1) 安全で安心して生活できる場</p> <p>ア・人間関係トレーニングなどを4時間以上の実施(新規)</p> <p>イ・2か月に1回全教員による施設点検の実施(新規)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・長期休業明けに救急連絡体制の確認3回(新規)</li> <li>・AED講習会の生徒参加40人(H27 30人)</li> </ul> <p>(2) 規範意識の醸成と個々の生徒への支援体制の強化</p> <p>ア・懲戒件数の1割減少(H27 180件)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・のべ欠席日数の5%減少(H27 11200日)</li> </ul> <p>イ・合理的配慮に関する校内研修2回実施(新規)</p> <p>ウ・担任を交えたケース会議を年4回実施(H27 2回)</p> <p>(3) 基本的な生活習慣の確立</p> <p>ア・年間150日の校門でのあいさつを実施(H27 100日)</p> <p>イ・受診率の5%向上</p> | <p>(1)</p> <p>ア・4月当初に教員研修を実施し、1年生のオリエンテーションにて実施。校内研修を活用しブラッシュアップを行いたい(◎)</p> <p>イ・定期的に行えなかったが、管理職に巡回と教員からの随時報告を受けた。連絡体制は管理職で確認した。AEDの参加者は30人。点検可能な日程を研究し実施体制を構築したい(○)</p> <p>(2)</p> <p>ア・丁寧な家庭訪問や当番の徹底で3割削減。次年度も学校全体で取り組みたい(◎)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・欠席は横ばい(○) 二年生は減少</li> </ul> <p>イ・4月と8月に外部講師を招き実施した。次年度もテーマを検討し支援体制の強化に努めたい(◎)</p> <p>ウ 4回実施(◎)</p> <p>(3)</p> <p>ア・160日実施した。次年度も引き続き実施したい。(◎)</p> <p>イ・受診率がH27 5.99%⇒H28 4.85となり減少してしまった(○) 次年度は受診の声掛けを実施したい。</p> |
| 2<br>基礎学力の育成             | <p>(1) 「魅力ある授業」の創造と実践</p> <p>ア 「できた。わかった。」が感じられる授業の研究を行う<br/>イ 少人数クラス</p> <p>(2) 公開授業の活用</p> <p>ア 公開授業週間を活用</p> <p>(3) 基礎基本を重視した教材を活用した授業づくり</p> <p>ア 先駆的取り組みをしている学校の見学<br/>イ 利用可能な先駆的な教材活用を進める</p>   | <p>(1) 「魅力ある授業」の創造と実践</p> <p>ア・ICTを活用した研究授業を行う</p> <p>イ・1年次のホームルームクラス数を9クラスに展開し、担任と生徒との信頼関係の構築に努め、生徒の生活背景を含めた状況を把握し授業担当者との連携を深める</p> <p>(2) 公開授業の活用</p> <p>ア・公開授業週間を活用し、グループ別討論など教員相互が授業に関する意見交換を行う。</p> <p>(3) 基礎基本を重視した教材を活用した授業づくり</p> <p>ア・他府県を含め、学校生活に課題を抱える生徒が多く学校の取組に学ぶため学校見学を実施する。</p> <p>イ・エンパワメントスクールなどの先駆的な教材の本校での活用方法を検討し、新たな授業方法の実践方法を模索する</p>   | <p>(1) 「魅力ある授業」の創造と実践</p> <p>ア・研究授業3回実施(新規)</p> <p>イ・1年次の中退率の5%減少</p> <p>(2) 公開授業の活用</p> <p>ア・生徒の授業満足度5%増</p> <p>(3) 基礎基本を重視した教材を活用した授業づくり</p> <p>ア・他府県の学校見学を行う教員10人(新規)</p> <p>イ・先駆的な教材収集10例以上収集し、検討会の実施3回(新規)</p>   | <p>(1)</p> <p>ア・研究授業5回実施(◎)</p> <p>イ・3月末付でH27は43人、H28は44人と1人増可(△) 就学の支援制度の関係で従来転学になる生徒が退学の手続きをするので増加した。進級率は増加している。</p> <p>(2)</p> <p>ア・H27 3.09⇒H28 3.25(◎) 公開授業や研究事業などの地道な活動の成果であり引き続き取り組みたい。</p> <p>(3)</p> <p>ア・エンパワメントスクールへの改編のため府内先進校見学に変更18人(△)</p> <p>イ・エンパワの府の教材の提供を受け教材の内容の理解を進めた。教科での検討を開始したが学校全体の検討会は未実施(△)</p>  |

## 府立和泉総合高等学校

|                             |   |   |  |   |
|-----------------------------|---|---|--|---|
| <p>3 自己肯定感の育成とキャリア教育の充実</p> | <p>(1) 生徒会活動や部活動、地域貢献の活性化<br/>ア 生徒の自主的活動<br/>イ ボランティア活動の充実<br/>ウ 部活動への参加</p> <p>(2) 3年間を見通したキャリア教育の推進<br/>ア 職業観・勤労観<br/>イ 生徒自身の自己発見の機会</p> <p>(3) 社会人としてのコミュニケーション力の大切を気づかせる<br/>ア コミュニケーション力<br/>イ 進路アンケート</p> | <p>(1) 生徒会活動や部活動、地域貢献の活性化<br/>ア・体育祭・文化祭の生徒会役員の当日の運営や準備期間で、教員と協力しながら活躍の機会を増やす<br/>イ・お掃除ボランティアに積極的に取り組む<br/>・和泉市教育委員会が募集するボランティア活動への参加を促す。<br/>ウ・生徒会と協力し、クラブ紹介や体験入部に取り組む</p> <p>(2) 3年間を見通したキャリア教育の推進<br/>ア・地元企業と協力し、インターンシップに取り組む<br/>イ・外部講師によるガイダンスや講演を活用し自己の進路に対する啓発を行う<br/>・資格取得への参加を促し、進路に向けた動機付けを行う</p> <p>(3) 社会人としてのコミュニケーション力の大切を気づかせる<br/>ア・場面に応じた適切な言葉選択できるよう粘り強く指導を行う。<br/>イ・進路アンケートを実施する</p> | <p>(1) 生徒会活動や部活動、地域貢献の活性化<br/>ア・学校教育自己診断の項目5%増<br/>イ・お掃除ボランティア参加する生徒の5%増<br/>ウ・クラブ加入率 20%に上昇させる。(H27 18%)</p> <p>(2) 3年間を見通したキャリア教育の推進<br/>ア・インターンシップ参加者5人 (H27 1人)<br/>イ・学校斡旋による就職希望者5%増<br/>ウ・資格取得者10%増 (H27 10人)</p> <p>(3) 社会人としてのコミュニケーション力の大切を気づかせる<br/>ア・3年生の就職面接練習参加者1割増 (H27 62人)</p> | <p>(1)<br/>ア・アンケート回収中<br/>イ・H27 72人/回⇒H28 82人/回 14%と増(○)<br/>ウ・H27 18%⇒H28 18%(○)<br/>今年度テニス部が団体戦に出場し3回戦進出、バスケットボール部公式戦勝利、柔道部1年が西地区3位など活動実績が向上した。</p> <p>(2)<br/>ア・H27 1人⇒H28 1人(△)<br/>アルバイトを優先する意識を克服できなかったため、来年度は早期からの声掛けを実施したい。<br/>イ・H27 62人⇒H28 64人(◎)<br/>好景気もあり就職希望者は増加また内定率も増加した。<br/>ウ・H27 10人⇒H28 11人(◎)</p> <p>(3)<br/>ア・H27 62人⇒H28 72人(◎)</p> |
|-----------------------------|---|---|--|---|